

報告・評価シートまとめ

項目	評価の視点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【地域協議会記入欄】 要望、助言、評価
法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	・事業所名称: クライスハイム熊本八幡、クライスハイム合志須屋 ・所在地: 熊本市南区八幡6-9-48、熊本県合志市須屋687-1 ・サービス種類: 共同生活援助（日中サービス支援型）	
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. 名称: クライスハイム熊本清水新地事業所 2. 住所: 熊本県熊本市北区清水新地4丁目7番50号 3. 定員: 共同生活援助10人、短期入所1人	
	短期入所を実施する住居	住居名 短期入所クライス熊本清水新地（1床）併設型・単独型 住所: 熊本県熊本市北区清水新地4丁目7番50号 計1床	
	主たる対象者	身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・難病患者・特定なし	
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6: 人、区分5: 1人、区分4: 1人 区分3: 5人、区分2: 人、区分1以下: 人	
	利用者の年齢	60歳以上: 1人、50歳代: 3人、40歳代: 2人、 30歳代: 1人、10歳・20歳代: 人	
	利用者の状況	利用者: 7人 住居内で日中を過ごす利用者: 2人 他の日中活動サービス利用者: 5人	
1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	私たちが自分の仕事や住まいを自分で選択してきたように、障害を持つ方も自分で選択できる社会を作りたいと考え、中でも特に、より困難な状況に置かれている重い障害のある方々の暮らしの場の必要性を感じ、その為に必要とされる社会資源として日中サービス支援型共同生活援助を選択し事業申請するに至った。	重心・医ケア対象者の利用者に対応できる資格者等はいるか。 ⇒職員数としては余裕があるが、看護師等の有資格者はいない。ただし、訪看と連携することにより対応は可能
	支援の基本方針	「輪」を繋ぎ、「和」を導ぶことを理念とし、「ミナノワ」という社名の由来となっています。関わる全ての人との間に利用者を支える支援の輪を形成し、住まいの場を永続的に提供し、また、働き、通うことで楽しみや自立のよこびを感じながら、一人ひとりが尊重しあえる総和を目指すことを基本方針としています。	
	日中の支援方法（日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか）	食事の提供や入浴、移動や排せつ、必要があれば医療機関への受診や外出の支援をしている。グループホームは利用者にとって、ご自分の家であることから、ご本人が最も心地よく安心できる過ごし方ができるように、塗り絵や好きなことなど趣味を楽しむ時間を保障するなど、それぞれの利用者がその人らしく日々を暮らしていけるようにと考えてサポートしている。	○利用者の日中の過ごし方について ⇒自室で過ごされる方が多く、食事の際に食堂で会話されている。 ○アレルギーや食べられるものに制限がある場合、どのように対応しているか ⇒食材を代替することで対応。
	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	（主な日中活動サービス等の利用先） B型事業所に3名、生活介護に2名通所されている。日中事業所とは日々の様子や体調の変化など送迎時に共有し安心して日中活動に参加できるよう連携している。利用者から困りごとの訴えがあれば相談支援専門員に依頼し必要時は担当者会議を開催するなどして連携している。	○職員同士の連携はどのように行っているか ⇒業務日誌を活用し、情報の周知を行っている。 （助言） トラブル発生時にご家族への連絡や謝罪が疎かになることで一層悪化することがあるので、速やかに連絡することを徹底していただきたい。
5	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	（地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください） 地域連携推進会議を開催し、利用者、利用者家族と共に民生委員、相談支援専門員も併せて交流の機会を持ち、地域行事への参加等を予定していくこととなった。実習生・ボランティアについては今後、受け入れを検討していく予定。	○地域連携推進会議の出席者と開催内容を教えて欲しい ⇒出席者: 町内会長、自治会長、民生委員、相談支援員 内容: 事業所の理念、生活の様子、施設、食事のサンプルの提供 ○出席者からはどんな意見が出たか ⇒事業所の存在は認識していたが、実情については知らなかったため、内部を見てよかったとの意見をいただいている。
6	障がい福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください）	令和6年実績。4月、倫理及び法令遵守・接遇 5月、虐待防止・不適切なケアを防ぐ 6月、口腔ケア・摂食・嚥下・服薬介助 7月排泄介助・入浴介助・プライバシーの保護の取り組み 8月、感染症・食中毒の予防及び蔓延防止 9月、身体拘束の排除・事故発生又は再発防止 10月、緊急時の対応 11月、非常災害時の対応 12月、福祉現場の感染症対策 1月、虐待について 2月、移動・移乗介助 3月、食事ケアと食事介助	○各研修や委員会の開催方法を具体的に教えていただきたい。 ⇒動画研修を行い、全員が受講する。虐待等重要事項については個別に行っている。委員会については本部で行ったものを各GHにおろし、各GHでも
	従業者の確保策（夜間も含めた人材の確保）・離職防止のための取り組み	求人募集に関してはハローワーク、民間求人会社など利用している。新規採用者に対しては一定期間の教育機関を設け、夜勤、日勤とも二人体制を原則とし、未経験者であっても経験のあるスタッフと相談しながら安心して業務に当たることができるよう勤務体制を工夫している。	○新規職員へのフォロー体制を教えて欲しい ⇒二人体制での支援を最低1か月設け、職員の習熟度によっては更に延長している。また、声掛けを意識すると共に、職員からの意見に対しては随時フィードバックを行っている。
	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保のための取り組み	外部研修も利用しながら、口腔ケア・摂食・嚥下・服薬介助。排泄介助・入浴介助・プライバシーの保護の取り組みなどの研修・教育の機会を設けている。経験・知識のある有資格者を配置し、困難事例への対応を含めた個性が反映された支援の具体的な技術伝達も進めている。	○職員が外部の研修を受ける場合、事業所からの援助はあるか ⇒研修費用の援助とシフトの調整を行っている。 ○有資格者は何名いるか ⇒強度行動障害支援者等研修修了者1名、介護福祉士3名、実務者研修修了者1名
9	利用者の健康管理方法	毎日、夜間3回の巡視で睡眠状況の把握と起床後のバイタルチェックを行っている。食事摂取量や排せつ状況なども確認し、毎日記録して体調の変化が把握できるようにしている。体調不良時は訪問看護師、嘱託医に連絡を取り必要時は受診や入院に繋げるよう支援をしている。	
	サービス等利用計画に係るモニタリングの実施方法（他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等）	相談支援専門員によるモニタリングでは、特に新規入居後の毎月のモニタリングにおいては、気になることがあれば事前に報告し、密に情報共有・連携している。モニタリング結果が個別支援計画に反映され、実際の個別支援においても統一性が保たれるように配慮している。	
	その他運営の特色や工夫等（設備面での障がい特性等への配慮）	車いす利用など歩行困難者に対応して施設はバリアフリー構造となっている。2階への移動もエレベーターが設置されており、各階に介助時のスペースを確保した手すり付の身障者対応トイレと浴室が一カ所ずつ設置されている。 （運営面での特色等） 嘱託医（精神科、内科、皮膚科）の月二回の往診を通して重症化・高齢化に対応できるように訪問看護も含めた医療者との連携を密に行っている。	車いす等の利用者は何名いるか ⇒歩行器1名、車いす利用者1名
その他	災害等発生時の対応方法	災害時業務継続計画に則り、利用者の安全の確保と被災時における「生活の場」を保障し、でき得る限りのサービスの提供を維持することのできる体制を整え、自力でサービスを提供する場合と他へ避難する場合の双方についても検討や準備を進めながら支援を継続していく。	○災害対応の訓練は年に何回開催しているか ⇒日中・夜間を想定し、年に2回開催している。
	感染症発生時の対応方法	感染症対策マニュアルを作成し、発生時の罹患利用者および他利用者への対応手順、また、報告が必要な利用者家族、行政、関係先事業所等の一覧を作成して対応している。年2回、感染症関連研修時に合わせて、感染症発生時の対応についても、改めて周知確認の機会を設けて発生時の感染拡大の防止に努めている。	
	地域協議会からの要望、助言への対応（2回目以降）	（要望・助言の内容及びその対応）	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】	
		具体的な内容	要望, 助言, 評価	
報告・評価シートまとめ				
法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・ソーシャルインクルー株式会社 ・東京都品川区南大井6-25-3 ・共同生活援助（日中サービス支援型）		
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. ソーシャルインクルーホーム熊本花園 2. 住所：熊本市西区花園7丁目63-12-2 3. 定員 20人		
	短期入所を実施する住居	住居名 短期入所熊本花園（1階 1床 2階 1床）併設型・単独型 計 2床		
	主たる対象者	身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・難病患者・特定なし		
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：2人、区分5：4人、区分4：7人 区分3：6人、区分2： 人、区分1以下： 人		
	利用者の年齢	60歳以上：3人、50歳代：5人、40歳代：4人、 30歳代：1人、10歳・20歳代：6人		
	利用者の状況	利用者： 19人 住居内で日中を過ごす利用者： 9人 他の日中活動サービス利用者： 10人		
項目	評価の視点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【地域協議会記入欄】 要望, 助言, 評価	
1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	住まいで困っている障がい者が『0』の社会を創るという理念のもとに障がい者の方ができない部分のサポートを受けて自立した生活が送れるように支援。また、住まいの場が圧倒的に不足している状況下において、住み慣れた地域を離れざるを得ない障がい者の方々が数多くいること、その課題を解決すべく申請に至りました。	○重心・医ケア対象者の有無、また、そういった利用者の受入体制は整っているか ⇒重心の利用者が2名いる。職員に強度行動障害支援者養成研修修了者を2名配置することで受入体制を整えている。	
	2	支援の基本方針	入居者様への寄り添い・温かいコミュニケーション・積極行動・プラス思考・凡事徹底の行動指針をもとに重度障害を持っていても出来ることの継続や維持し安心した生活が送れるように寄り添い自立に向けた支援を提供します。	○利用者の中に身寄りのない人はいるか。また、そういった方に対してはどのような支援をしているか ⇒身寄りのない利用者に対しては、受け入れ前後見人の申請等支援を行っている。
利用者の主な日中活動	3	日中の支援方法（日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか） 食事（3食手作り）・排泄・入浴（整容）・掃除等身の回り支援・健康管理（毎日バイタル測定 個別レク（折り紙・塗り絵・工作等） 季節の行事	○食事の準備は利用者が手伝ったりするか ⇒自力で可能な方は手伝っている。利用者の自立を促すため、家事で出来る範囲はなるべく利用者自身で行う様にする。 ○食事について利用者から希望があった場合はどのように対応しているか ⇒基本的には月ごとに献立を決めており、カロリー計算等を行っているため、対応することが難しい。ただし、季節やご当地のメニューなどを提供することで飽きさせないようにしている。	
	4	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	（主な日中活動サービス等の利用先） B型就労支援：5名 生活介護：3名 デイケア：2名 本人の体調や、ホームでの様子を連絡帳にて報告行い、連絡帳がない事業所は、送迎時に口頭や電話にて連絡し情報共有を行っています。	○日中の過ごし方について利用者から要望があった場合はどんな対応をしているか ⇒ドライブ等の希望があるが、まだ対応できていないので、今後検討していく。 ○日中職員が1名になる時間があるが、現状対応は出来ているか ⇒現状では特に問題は発生していない。
運地域域に開かれた	5	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	（地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください） 地域の民生委員の方と連絡先を交換行い、今後は地域の行事がある場合は連絡をいただくようにしています。	○地域連携推進会議は開催したか、開催した場合は誰が参加したか ⇒11月に開催した。参加者は民生委員、相談員2名（福祉に知見のある方）、利用者、利用者ご家族（参加利用者とは別のご家族） ○会議ではどのような意見が出たか ⇒利用者家族にAEDの設置を求められた。現時点で事業所にAEDの設置はしていないが、近隣のAED設置場所を把握している。 ○地域連携推進会議を通し何か成果は得られたか。 ⇒民生委員と交流を持つことができ、今後地域でイベントを開催する際は連絡をいただけることとなった。 （助言）花園地区では民生委員が障害に対する理解のある方が多いので、事業所からも積極的にイベントに参加すると良い
	6	障がい福祉関連事業における経験がない従業員に対する対応（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください）	（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください） 毎月一度のホーム研修で、虐待や感染対策等の研修を行っている。 社内で、強度行動援助従業者研修やサービス管理責任者などの資格取得制度を設けている。	
運営・支援について	7	従業員の確保策（夜間も含めた人材の確保）・離職防止のための取り組み	人社時研修を行い、障がいの特性や仕事の流れを説明行い、定期的に面談を行って悩みや相談事を聞いている。	○職員の入替はどのくらいあるか ⇒夏場までは多かったが、直近3～4か月はない。 （助言）職員の入替の時期に、利用者から新しい職員の対応が良くないという苦情が寄せられることがGH全体として多いので、法人全体の研修と別に、個別の利用者に関する申し送りも確実に行われるように。 ○職員は未経験と経験者どちらが多いか ⇒正規職員となる生活支援員については経験者が多いが、非正規となる世話人については未経験者が多い。 ○サビ管のOJT配置はあるか ⇒現時点ではない。 （助言）サビ管が突然辞めて配置に苦労する事業所が多いので、OJTを活用してフォローが出来る体制を築くと良い。 ○職員配置全体を通して （助言）職員配置がかなりギリギリに見えるので、支援について悩むことがあれば事業所内だけで抱え込むのではなく、センター等外部にも相談するとよい。
	8	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業員の質の確保のための取り組み	介護経験者が、未経験者の職員に対して、介護の仕方を的確に指導している。 報・連・相をしっかりとるように指導行い、朝夕の申し送りやノートで情報共有を行い、疑問などは管理者やサビ管にすぐに報告するようにしている。	○利用者によっては職員への負担がかかる場面があると思うが、困っていることや対応で工夫していることはあるか ⇒車いす利用者への対応に慣れていない方もいるため、ベテランの職員でフォローしている。 （助言）管理者等リーダー格の職員が全ての職員に対し教えるのは難しいため、職員間でフォローの体制を築くと良い。
	9	利用者の健康管理方法	毎日、決まった時間に血圧・体温測定を行う。 変化があったとき、異変の訴えがあったときは主治医、協力医療機関や訪問看護へ相談する。	○てんかん発作への対応等が事業所内に掲示されており、職員に見える化されておりとても良い
運営・支援について	10	サービス等利用計画に係るモニタリングの実施方法（他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等）	グループホームのサービス管理責任者が6か月毎に実施	
	11	その他運営の特色や工夫等（設備面での障がい特性等への配慮）	（設備面での障がい特性等への配慮） 建物内はバリアフリーで車いすの方でも住みやすい環境を整備している。 全室個室で、他の方と接したくない方などには、居室で対応できるように配慮している。 （運営面での特色等） 全国にグループホームを展開し同法人内での連携が可能。精神障がい・知的障がい・身体障がい・難病、すべての障がいに対応している。	
その他	12	災害等発生時の対応方法	・消防計画（火災）、非常災害対策計画（地震等）、避難確保計画（水害・土砂災害のリスクがあるホームのみ）を備えている。 ・各計画に基づいて、年2回避難訓練を行っている。 ・災害備蓄品を備えている。 ・BCPを策定し、研修・訓練を行っている	
	13	感染症発生時の対応方法	・感染症対応マニュアルを策定していること。 ・感染症対応の研修や訓練を行っていること。 ・定期的に管理者が委員長となり、感染症対策検討委員会を開き、日々の感染対策等を振り返っていること	○感染症や虐待・身体拘束の委員会や研修の開催状況については法人全体で管理しているのか ⇒研修や委員会については本社に報告する体制になっており、未報告の場合本社から未報告事業所のリストが届くため、開催漏れはない。
	14	地域協議会からの要望、助言への対応（2回目以降）	（要望・助言の内容及びその対応）	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
報告・評価シートまとめ			
法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・ソーシャルインクルー株式会社 ・東京都品川区南大井6-25-3 いちご大森ビル2階 ・障がい者総合支援法における障がい福祉サービス（日中サービス支援型、介護サービス包括型）	
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. ソーシャルインクルーホーム熊本鶴羽田1（住所：熊本市北区鶴羽田3-9-18）定員20人 2. ソーシャルインクルーホーム熊本鶴羽田2（住所：熊本市北区鶴羽田3-9-18）定員20人	
	短期入所を実施する住居	住居名 ソーシャルインクルーホーム熊本鶴羽田1（1床） 併設型・単独型 住居名 ソーシャルインクルーホーム熊本鶴羽田2（1床） 併設型・単独型 計2床	
	主たる対象者	身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者・難病患者・特定なし	
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：4人、区分5：5人、区分4：5人 区分3：5人、区分2：1人、区分1以下：0人	
	利用者の年齢	60歳以上：5人、50歳代：8人、40歳代：3人、 30歳代：1人、10歳・20歳代：3人	
	利用者の状況	利用者：19人 住居内で日中を過ごす利用者：10人 他の日中活動サービス利用者：9人	
項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	住まいで困っている障がい者が『0』の社会を創るという理念のもとに障がい者の方ができない部分のサポートを受け自立した生活が送れるように支援。また、住まいの場所が圧倒的に不足している状況下であり、住み慣れた地域を離れざるを得ない障がい者の方々が数多くいること、その課題を解決すべく申請に至りました。	○入浴等に介助が必要な利用者ほどの程度いるのか ⇒車いす3人、手引き2人の方は介助が必要。 ○医ケア者や行動障害の利用者はいるか ⇒医ケア1人、強度修了者2人
	支援の基本方針	入居者様への寄り添い・温かいコミュニケーション・積極行動・プラス思考・凡事徹底の行動指針のもとに重度障がいを持っていても出来ることの継続や維持した生活が送れるように寄り添い自立に向けた支援を提供します。	
利用者の主な日中活動	日中の支援方法（日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか）	外部サービスを利用されていない入居者様はリビングでテレビ視聴や机上作業（折り紙、書字練習など）を見守り、声掛けの支援をさせていただいております。また、各居室で過ごされている方もいらっしゃいます。その場合は定期的に様子を伺っています。人員に余裕がある時は屋外散歩や外気浴を行っています。	○利用者の週末の過ごし方 ⇒平日通所の方は、帰ってきてから机上で折り紙や自室で過ごされている。定期的に週末に帰ったりするが、基本GH内 ○GHでのイベント ⇒クリスマス会を日曜に行った
	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者と連携に努めているか	（主な日中活動サービス等の利用先） 本人の体調や状況の報告を行い各機関と情報共有を行い課題がある場合は解決に向けた話し合いを行います。 ・学苑3名 ・紅い華2名 ・れんがの家1名 ・ケアハピネス1名	
運地域域に開かれた	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	（地域住民との交流機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください） 地域の交流では月に1回の資源物回収に参加しています。入居者様には段ボールをつぶして車に積んでいただいております。今後は回収場所へ降ろす作業への参加を考えています。また散歩で地域の方にお会いしたら挨拶などのコミュニケーションを図っています。	○資源物回収の効果や利用者への影響はどうか ⇒現段階ではGH内で段ボールをつぶして、車に載せるところまで行っている。資源物回収により自治会にお金が入るので、今後も継続し、より地域住民との参加を図っていく予定
運営・支援について	障がい福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください）	（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください） 毎月のホーム研修（虐待防止、食中毒感染症、避難訓練、緊急対応、障がい特性等）、虐待防止セルフチェックを行っています。 社内で強度行動援助従業者研修やサービス管理責任者などの資格習得制度を設けています。	○新規採用や、未経験者に対する教育制度の有無（現場での教育方法） ⇒入社時研修、1か月パソコンやビデオでOJT研修。OJT後も、個別の習熟度に合せて振り返りをしている（大体月1〜2回）。法人全体での勉強会も、毎月行っている。委員会も、グループ全体、事業所毎両方ある。 ○現時点で資格取得者ほどのくらいいるか。 ⇒強度行動障害支援者養成研修修了者が2名いる。 ○職員が外部の研修を受講する際に支援を行っているか。 ⇒研修費用の援助、研修受講中は出勤扱いにしている。
	従業者の確保策（夜間も含めた人材の確保）・離職防止のための取り組み	知り合いなどへの声掛けも積極的に促しています。疑問や不安があれば面談を設けています。不安や不満を傾聴し協力し合える職場環境作りを図っています。	○人材確保で難しい点 ⇒市内だとなかなか人材が集まらない ○職員がどのくらい応募があるか ⇒先日、半年ぶりに入った ○基準上の職員数は問題ないが、実際の支援を考えると職員数は厳しいか ⇒ギリギリではある。ただ、職員1人で対応できる利用者が多い為、何とかなっている。また、研修の都度面談の機会を設け、職員の離職防止に努めている。 ○離職の理由はどのようなものがあるか ⇒本人の体調や家庭の事情
	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保のための取り組み	不明な事や事故などがあればスタッフ同士相談したり、情報共有（ケア会議やモニタリング）のため申し送りノートの活用、また管理者への報告や連絡を徹底しています。	
運営・支援について	利用者の健康管理方法	起床時のバイタル測定、体調の伺いを行っています。本人からの訴えや変化、異変に気付いた時点で訪問看護、ご家族、協力医療機関への連絡・相談を行っています。	○訪問看護が入った際は情報の共有は行っているか。 訪看からの支援終了後に報告を受けている。 ○何人の利用者に訪看が入っているか ⇒利用者16人/20人は訪看が入っている。
	サービス等利用計画に係るモニタリングの実施方法（他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等）	モニタリングは相談支援専門員が定期的に行いホームスタッフも参加しています。サービス利用計画はホームのサービス管理責任者が6カ月毎に実施しています。	
	その他運営の特色や工夫等（設備面での障がい特性等への配慮）	（設備面での障がい特性等への配慮） ホーム内は1階2階ともバリアフリーになっています。2階へはエレベーターを設置しています。 浴室には昇降リフトを設置しており、個浴のご利用が困難な方でも入浴が可能となっています。 （運営面での特色等） 全国にグループホームを展開し、同法人内で連携が可能です。精神障がい・知的障がい・身体障がい・難病のすべての障がいに対応しています。	
その他	災害等発生時の対応方法	年に2回、消防訓練は日中と夜間、また災害時を想定し避難訓練を実施しています。消防訓練時には管轄消防署に届け出をしています。災害に備えた備蓄は水、食料を3日分用意しています。	防災訓練は利用者も参加するの ⇒日中想定、夜間想定ともに参加する。 ○BCPの更新⇒年1回、発電機はなし。現状医療機器が必要な方はいない。看護師不在のため現状受入は難しい。 カセットコンロ等はある。
	感染症発生時の対応方法	感染症の対応の研修（年2回）訓練、委員会（年4回）を行っています。感染症の発生時には感染症対応マニュアルに沿って対応します。	○感染症まん延により職員が一時的に不足した場合、どのように支援体制を維持しているか。 ⇒同法人により運営されている他事業所よりヘルプの職員が派遣される。
	地域協議会からの要望、助言への対応（2回目以降）	（要望・助言の内容及びその対応）	

項目	評価の視点	【事業所記入欄】	【地域協議会記入欄】
		具体的な内容	要望, 助言, 評価
報告・評価シートまとめ			
法人概要	法人が運営する障害福祉サービス等事業（当該GH以外）	事業所名称、所在地、サービス種類 ・株式会社 和剛 ・熊本県熊本市南区富合町小岩瀬331 ・短期入所	
事業所基本情報	各住居名称、所在地、定員	1. 障がい者グループホームてる照3（住所：熊本市南区小岩瀬379-3） 2. 熊本県熊本市南区富合町小岩瀬379-3 3. 定員 10人	
	短期入所を実施する住居	住居名 障がい者グループホームてる照3（1床）併設型・単独型 計 1床	
	主たる対象者	身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者	
利用者について	利用者の障害支援区分	区分6：4人、区分5：2人、区分4：1人 区分3：2人、区分2：0人、区分1以下：0人	
	利用者の年齢	60歳以上：0人、50歳代：0人、40歳代：4人、 30歳代：3人、10歳・20歳代：2人	
	利用者の状況	利用者：9人 住居内で日中を過ごす利用者：2人 他の日中活動サービス利用者：7人	
項目	評価の視点	【事業所記入欄】 具体的な内容	【地域協議会記入欄】 要望, 助言, 評価
1	当該日中サービス支援型共同生活援助事業の指定申請に至った経緯、目的等	障がいのある方が地域で安心して生活できる住まいと支援の必要性を感じ、本事業を計画しました。日中を含めた継続的な生活支援を行い、利用者の安定した生活と地域福祉の向上に寄与することを目的とします。	Q, 障がい種別ごとの人数は何人か A, 身体(手引き歩行)1人、知的9人、精神2人 Q, 医ケア・重心の利用者はいるか A, 看護師を配置していないので現時点では受入をしていない。ただし、既存の利用者については訪問看護ステーションと24時間連携する体制を取っている。
	支援の基本方針	利用者一人ひとりの障がい特性や意思を尊重し、安心・安全な生活が送れるよう、日中を含めた継続的な支援を行います。また、関係機関と連携し、地域で自立した生活を継続できるよう支援します。	Q, 利用者の受入を拒否することはあるか。 A, 他害行為がひどい場合、他利用者の安全を考慮しお断りすることがある。
利用者の主な日中活動	日中の支援方法（日中をGHで過ごす利用者に対してどのような支援を行うのか）	日中は利用者の状態に応じて見守りや声掛けを行い、食事・服薬・排泄などの日常生活支援や健康管理を行います。また、生活リズムの維持や安心して過ごせる環境づくりに努めます。	Q, 日中をGHで生活される方はどのように過ごされることが多いか。 A, 利用者が希望される場合はドライブに行ったりしている、利用者によっては過剰な干渉を嫌う方もいる為、個別に適切な距離を保って支援している。
	利用者の意向に合わせて適切な日中活動サービス等が利用できるよう、相談支援事業者や他の障害福祉サービス事業者との連携に努めているか	（主な日中活動サービス等の利用先）利用者の意向を尊重し、適切な日中活動サービスが利用できるよう銀河フィオーレ他、相談支援事業者や障がい福祉サービス事業者と担当者会議やモニタリング、適宜電話連絡にて連携を図っています。	
運地域域に開かれた	地域との交流や実習生・ボランティアの受け入れを行っているか	（地域住民との交流の機会を確保する工夫等について、1つ以上記載してください）第一回地域連携推進会議を実施（2025, 9, 30）。今後も地域行事への参加や地域住民との交流を図るとともに、実習生やボランティアの受け入れを検討し、地域に開かれた事業運営に努めます。	Q, 地域連携推進会議について、地域からはどんな方が参加されたか。また、どのような議題に取り組んだか。 A, 自治会長、婦人会会長、子ども会会長に対し事業の紹介を行った。以前から交流もあったため、好意的な反応をいただいた。 （助言） 国としても障がい者の地域移行を進めているため、今後も積極的に地域との交流を図ってほしい。
運営・支援について	障がい福祉関連事業における経験がない従業者に対する対応（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください）	（外部または事業所内研修の受講計画（年間計画）や、資格取得への取り組みについて具体的に記載してください）障がい福祉関連事業の経験がない従業者については、初期研修を行い、必要な知識・技術の習得を図ります。また、継続的な研修を実施するとともに資格取得を支援し、職員の資質向上と支援の質の向上に努めます。	
	従業者の確保策（夜間も含めた人材の確保）・離職防止のための取り組み	夜間を含めた安定した人材確保のため、勤務形態の工夫や働きやすい職場環境の整備に努めます。また、職員からの相談体制の充実に加え、処遇改善を図る事で職員の負担軽減と定着促進を図り、離職防止に努めます。	Q, 相談体制の充実とあるが、どのような取り組みをしているか。 A, 相談しやすい空気作りに努めると共に、相談があった場合にはなるべく具体的な形で解決するよう反映している。
	利用者の重度化・高齢化に対応するための従業者の質の確保のための取り組み	利用者の重度化、高齢化に対応できるよう、研修を通じて職員の専門性の向上を図ります。また、医療・福祉関係機関と連携し、必要な知識や支援技術の習得に努め、支援の質の確保に取り組みます。	Q, 職員が外部の研修を受講する場合、事業所から援助はあるか。 A, 研修費用を援助し、研修受講中は出勤扱いとすることで支援している。
運営・支援について	利用者の健康管理方法	日常的な体調管理（バイタル測定・排泄チェック・体重測定）や声掛け、服薬管理を適切に行います。必要に応じて医療機関や家族と連携し、利用者の健康管理に努めます。また、緊急情報シートやフローチャートを作成しており、体調急変や事故などの緊急時には医療機関や関係機関と連携し、迅速かつ適切に対応します。	
	サービス等利用計画に係るモニタリングの実施方法（他法人が運営する指定計画相談支援に依頼する等）		
	その他運営の特色や工夫等（設備面での障がい特性等への配慮）	（設備面での障がい特性等への配慮）利用者が安全かつ安心して生活できるよう、段差の解消や手すりの設置など、障がい特性に配慮した設備環境を整えています。また、利用者の状態に応じて快適に過ごせる生活空間づくりに努めます。 （運営面での特色等）利用者一人ひとりの状況や意向に応じた支援を行い、関係機関と連携しながら安定した事業運営に努めます。また、職員間の情報共有を徹底し、支援の質の向上を図ります。	
その他	災害等発生時の対応方法	自然災害発生時における業務継続計画策定（ハザードマップ、自然災害BCPのフローチャート、災害等対応策標準マニュアルなど）	Q, 災害に備えた非常食等は何日分用意しているか。 A, 3日分。 Q, BCPやマニュアルは作成後更新しているか A, 11月ごろに1度更新している。
	感染症発生時の対応方法	感染予防対策策定（グループホームにおける感染症対策、感染対策マニュアル、感染対策の基礎知識など）	
	地域協議会からの要望、助言への対応（2回目以降）	（要望・助言の内容及びその対応）	